

フォトシティさがみはらアマチュアの部歴代「市民奨励賞」受賞作品展

アマチュアリズムの軌跡

2020年1月25日(土)―2月16日(日)



今年で20周年を迎える「相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら」は、プロの作品だけではなく、アマチュアの作品発表の場として全国から作品の公募ならびに顕彰を行ってきました。城山町、藤野町と合併した2007年からは、それまでの「金賞」「銀賞」「銅賞」に加え、新たに相模原市民の応募者を対象とした「市民奨励賞」を設けました。本展では、フォトシティさがみはらの市民参加の側面を紹介すべく、歴代の市民奨励賞受賞作品を紹介します。



開催概要

展覧会名 | フォトシティさがみはらアマチュアの部
歴代「市民奨励賞」受賞作品展「アマチュアリズムの軌跡」

会 期 | 2020年1月25日(土)―2月16日(日)

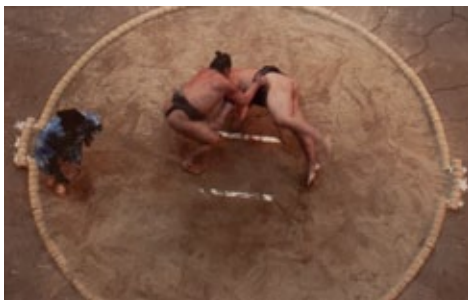
会 場 | 相模原市立市民・大学交流センター

ユニコムプラザさがみはら マルチスペース
〒252-0303 相模原市南区相模大野 3-3-2
ポーノ相模大野サウスモール 3階

開場時間 | 9:00―22:00

主 催 | 相模原市(相模原市民ギャラリー)

協 力 | 相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
フォトシティさがみはらサポーターズクラブ



山本惇子《ミニチュア相撲》2019年受賞(3点組)

同時開催「私のこの1枚写真展」

「相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら」の市民参加型の事業として、写真を撮る楽しさ、見せる喜び、見る面白さを体感できる「私のこの1枚写真展」を開催します。

今年も、参加者の皆さんが撮影したとっておきの1枚が勢ぞろい!

写真展では、より皆様に楽しんでもらうため、スポンサーの方々のご協力により多数のスポンサー賞を設けています。受賞作品にはユニークな名称の賞がつけられ、こちらも必見です。ご家族と、お友達と、ぜひ一緒にご覧ください。

本展の見どころ

市民により醸成された豊かな写真文化

本展の出展作品は、全て相模原市民によって撮影されています。

それらは、身近な家族や風景の何気ない一瞬を瑞々しい視点でとらえながら、シャッタースピードや構図、複数の写真の組み合わせなどの創意工夫を重ね、美しい作品として仕上げられています。

これらは、フォトシティさがみはらが市民とともに新たな相模原の文化として写真の制作、発表、鑑賞を続け、向上を重ねてきた歩みによるものと言えるでしょう。

来年度に 20 周年を迎える相模原市の写真文化のこれまで、そしてこれからの歩みを、市民の作品とともにご覧ください。

また、作品と合わせて当時の選評を掲載しておりますので、日常を美しく撮るコツを学んでいただく機会となれば幸いです。

「アマチュア」本来の意味と在り方

アマチュアという言葉は、時に「素人」などといったプロフェッショナルに対して知識や技術が劣るというような、ネガティブな意味合いで用いられてしまう場合があります。しかし、アマチュアという言葉の語源はラテン語の「amator」=「愛する人」という語にあり、「素人」というよりは「愛好家」とする方が本来の意味合いに近いものとなります。金銭を目的とせず、純粹に好きなものを追求していく人が正しい「アマチュア」でありそうした姿勢を「アマチュアリズム」と呼びます。

今年の夏には東京オリンピックの開催が控えていますが、近代オリンピックもまたアマチュアリズムを基本として開催されました。もちろん、スポーツだけでなく芸術や文化の面においても愛好家たちにより様々な表現が試みられその裾野が広げられた歴史があります。

本展も、そうした市内のアマチュアたちによって写真文化が育まれてきた軌跡の一端としてご覧いただければ幸いです。

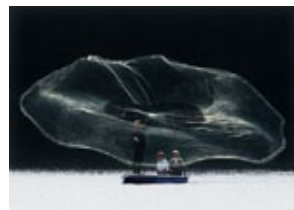
出品作品



金井勝利《ダイヤモンドの輝き》2007年受賞



若杉義男《ヨッ!》2008年受賞



新井信行《落ち鮎》2009年受賞



内藤健一《一瞬の輝き》2010年受賞



岡山信男《太陽》2011年受賞



竹谷一夫《夜明けの刻》2012年受賞



宮野正実《満月の花見》2013年受賞



平野君子《相模原の賑わい》2014年受賞



久保田武彦《谷川の秋》2015年受賞



伊東充《風》2016年受賞



清水千俊《春うらら》2018年受賞



中山瑞雄《季節と共に》2017年受賞（3点組）

問合せ先 相模原市民ギャラリー
電話 042-776-1262
担当 山田